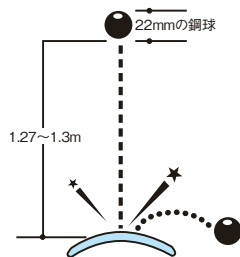


保護めがねのJIS規格（要旨）

この規格は、浮遊粉じん、薬液飛まつ（沫）、飛来物等から作業者の目を守り、又めがねを使用することで視力に影響を与えたり目の疲労などがおきないよう最低限の規定を設けて、これをクリアするよう明示しています。主な規格の内容は以下のとおりです。

〈耐衝撃性〉

直径22mmの銅球を1.27～1.3mの高さから自由落下させ、この衝撃によりレンズが2片に割れたり、縁が欠けたりしないこと、また、レンズが枠から飛び出さないことなどを規定しています。



〈光学的特性〉

(1) 屈折力（球面屈折力、円柱屈折力）

どのような経線においても、屈折力が $0 \pm 0.12 \text{ m}^{-1}$ であること。
 $\pm 0.12 \text{ m}^{-1}$ とは、 $D = 1/f = 1/0.12$ 、 $f \approx 8.3$ となり、8.3m 以上の焦点距離を持つものでなければならないということになります。（度が入っていないこと）

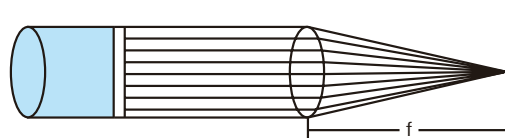
この程度であれば目に異常は感じません。

また、中心から直径40mmの範囲内において、どのような二経線間においても、屈折力の差が 0.12 m^{-1} 以下であること。

屈折力の差は、レンズの表面がきれいな球面でなくその精度が悪いと生じます。（レンズにゆがみのないこと）

また精度のよいものでも、レンズの光学中心から離れるにしたがって差が出てきます。

いずれにしても JIS 規格の数値程度では目には感じません。



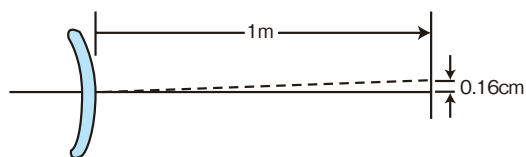
(2) 平行度

0.16cm/m 以下であること。

平行度は、右図のようにレンズに対して、直角に入った光が通過してずれる量をいいます。

0.16cm/m とは、通過した光が 1m の地点で 0.16cm ずれることを表します。

それ以下ということは、通過した光がほとんどずれておらず目には影響がないといえます。



(3) 視感透過率

視感透過率は 85% 以上であること。

視感透過率が 0% ということは、全く光を通さず何も見えないうことになります。

85% 以上であれば、非常に透明度が高く視力への影響はありません。

